

# 市内循環バス及び乗合タクシーの 利用促進について

## <目 次>

1 市内循環バス及び乗合タクシーの利用促進策の検討 .....	1
1.1 武蔵村山市で現在実施している利用促進策 .....	1
1.2 新たな利用促進策の検討 .....	2

# 1 市内循環バス及び乗合タクシーの利用促進策の検討

## 1.1 武蔵村山市で現在実施している利用促進策

武蔵村山市で現在実施している市内循環バス及び乗合タクシーの利用促進策を以下に示す。

表 1 武蔵村山市で実施している利用促進策

	利用促進策	実施頻度	対象
1	市報へのバナー広告	毎号(掲載スペースがある場合)	市内循環バス 乗合タクシー
2	市報への利用促進記事の掲載	不定期	主に市内循環バス
3	「村山デエダラまつり」での利用促進、PR ①パネル展示(見どころマップ・大判のルート図等の掲示、循環バスで行ける観光スポット等を写真で紹介) ②循環バスがデザインされたポケットティッシュの配布 ③意見回収箱を設置し循環バスに関する意見を募集 ④循環バスデザインのペーパークラフトの配布	年1回	市内循環バス
4	市役所ロビーでのパネル展開催 ※「村山デエダラまつり」と同様のパネル展示	年1回	市内循環バス
5	市役所駐車場等への看板の設置	常時	市内循環バス
6	イオンモールフードコート内のデジタルサイネージ(電子広告)での利用促進	常時	市内循環バス
7	地域掲示板での乗合タクシー利用促進チラシの掲示(南西地域のみ)	不定期	乗合タクシー
8	回覧板を活用した利用促進	不定期	市内循環バス 乗合タクシー

## 1.2 新たな利用促進策の検討

武蔵村山市の地域特性や交通に関する課題を把握し、他都市での事例を参考にしながら、武蔵村山市で適用性が高いと考えられる利用促進策を抽出する。

### (1) 武蔵村山市の地域特性・交通課題の把握

#### ① 子育て世帯が多い

○武蔵村山市の年齢別人口構成を東京都と比較すると、子どもの割合が高いことから、子育て世帯が多いと推察される。

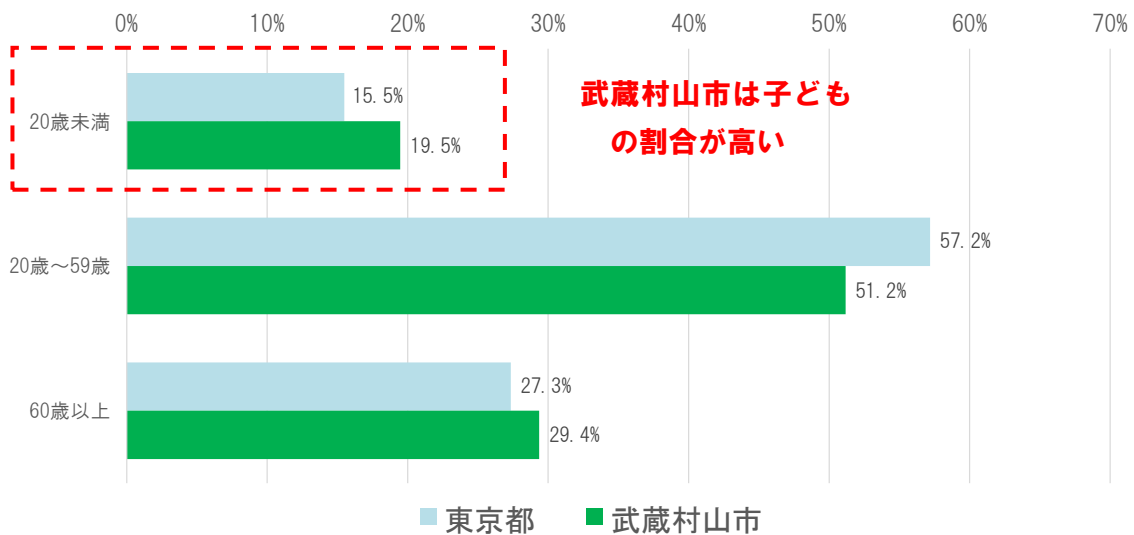
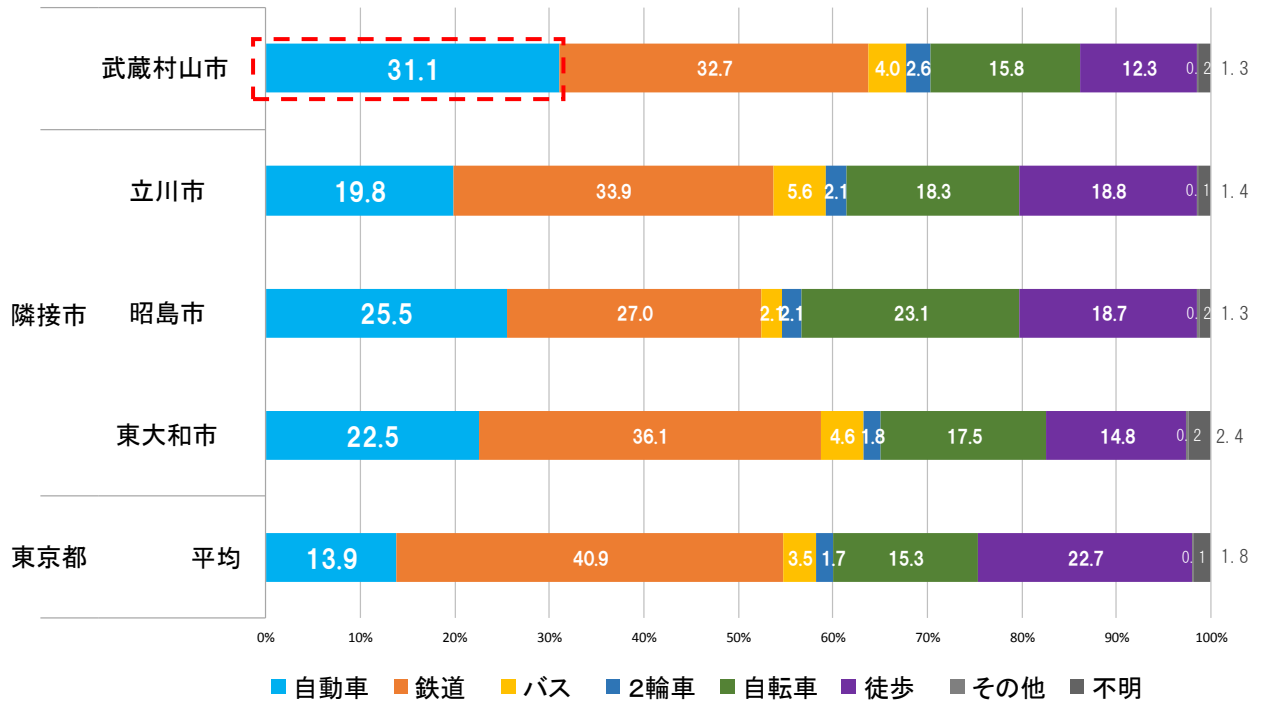


図 1 年齢別人口構成

出典：平成 22 年国勢調査

② 自動車への依存度が高い

○武蔵村山市の自動車分担率は約31%と隣接市や東京都全体よりも高い。



※各都市を出発または目的地とする移動が対象

図 2 代表交通手段別分担率

出典：平成20年東京都市圏パーソントリップ調査

○武蔵村山市の免許保有率は約61%と東京都全体よりも高い。

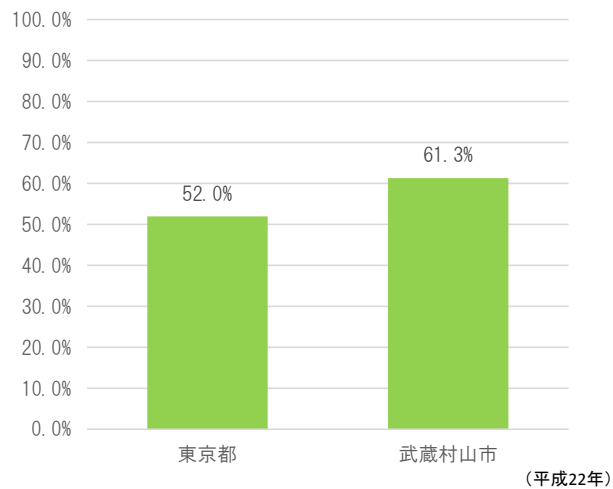


図 3 免許保有率

資料：警視庁交通年鑑・武蔵村山市第六次交通安全計画 H23～27

○人口と市内循環バスの利用者を比較すると、子育て世代のバス利用率が低く、特に自動車依存が高いと推察される。

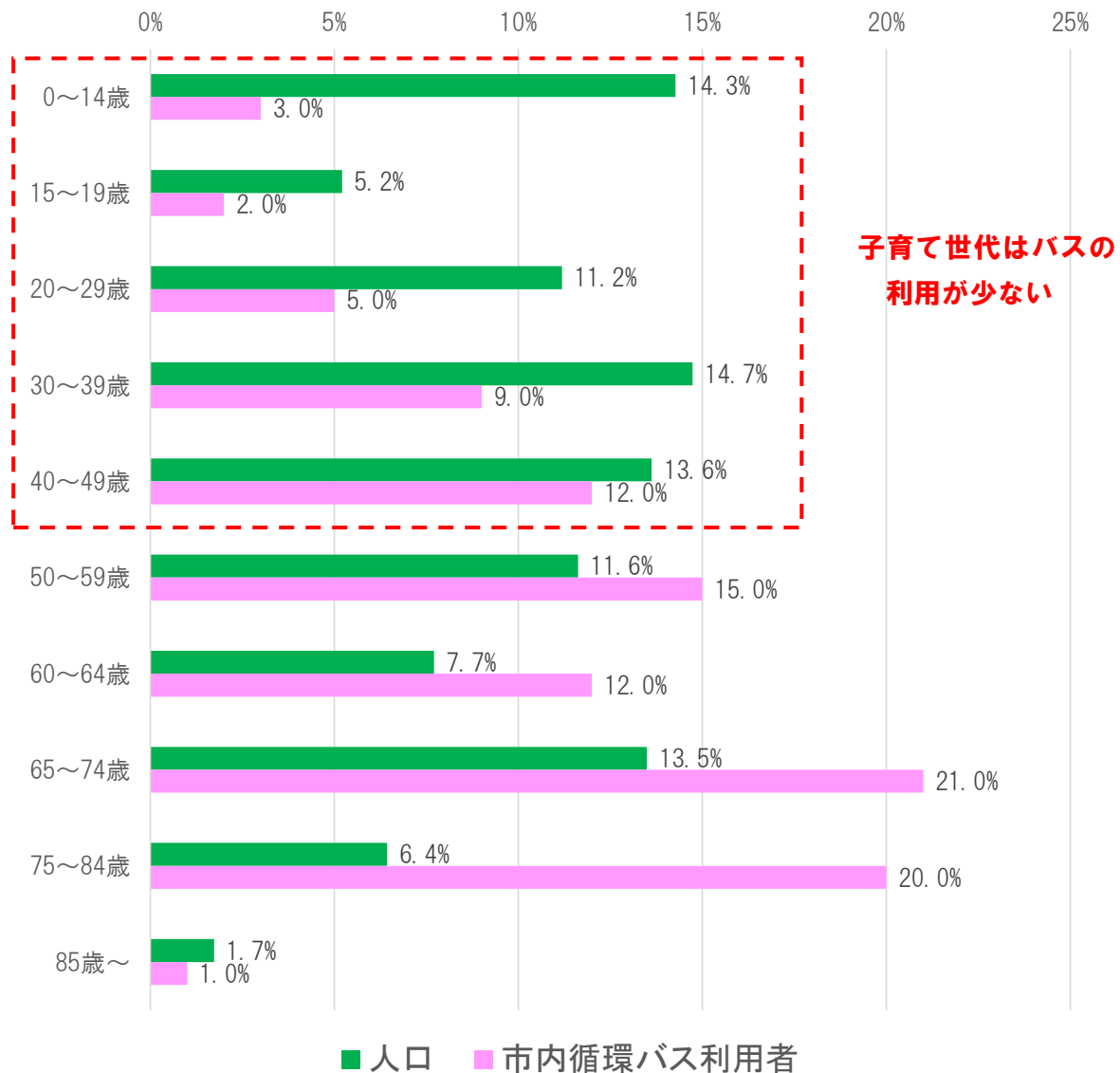


図 4 武蔵村山市の人口構成と市内循環バス利用者の比較

出典：バスOD調査表

以上より、武蔵村山市で適用性が高い利用促進策として以下の視点が考えられる。

**【武蔵村山市で適用性が高いと考えられる利用促進策の視点①】**

**子育て世代を中心に過度な自動車利用から公共交通への転換**

③ 市内に鉄道駅が存在しない

○武蔵村山市内には鉄道駅が存在しないため、市内から鉄道を利用する際の端末交通手段は、徒歩以外が8割を占めており、バスも2割強と重要な役割を担っている。

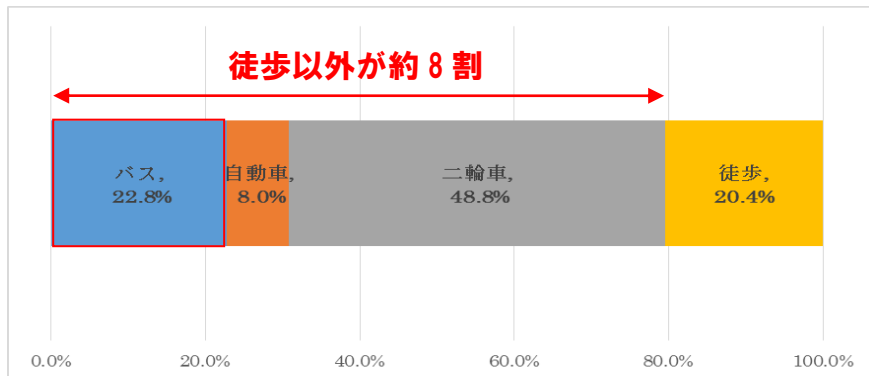


図5 武蔵村山市内から鉄道を利用する際の端末交通手段

資料：第11回大都市交通センサス（平成22年度調査）

表2 武蔵村山市内から鉄道駅を利用する際の端末交通手段（内訳）

初乗り路線名	初乗り乗車駅名	バス	自動車	二輪車	徒歩	合計
JR	立川	323	0	159	0	482
JR	昭島	401	97	174	0	672
西武線	小川	39	0	0	0	39
西武線	東大和市	24	29	0	0	53
西武線・モノレール	玉川上水	351	337	1,962	882	3,532
西武線	武蔵砂川	0	20	67	650	737
西武線	西武立川	466	48	38	0	552
モノレール	桜街道	66	99	677	79	921
モノレール	上北台	131	0	775	0	906

初乗り路線名	初乗り乗車駅名	バス	自動車	二輪車	徒歩	合計
JR	立川	67.0%	0.0%	33.0%	0.0%	100%
JR	昭島	59.7%	14.4%	25.9%	0.0%	100%
西武線	小川	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
西武線	東大和市	45.3%	54.7%	0.0%	0.0%	100%
西武線・モノレール	玉川上水	9.9%	9.5%	55.5%	25.0%	100%
西武線	武蔵砂川	0.0%	2.7%	9.1%	88.2%	100%
西武線	西武立川	84.4%	8.7%	6.9%	0.0%	100%
モノレール	桜街道	7.2%	10.7%	73.5%	8.6%	100%
モノレール	上北台	14.5%	0.0%	85.5%	0.0%	100%

○市内循環バスでは、鉄道駅での乗降割合がほとんどの路線で5割以上となっており、鉄道駅へのアクセスニーズが高い状況である。  
 (上北台ルート、玉川上水ルート、武蔵砂川ルート)

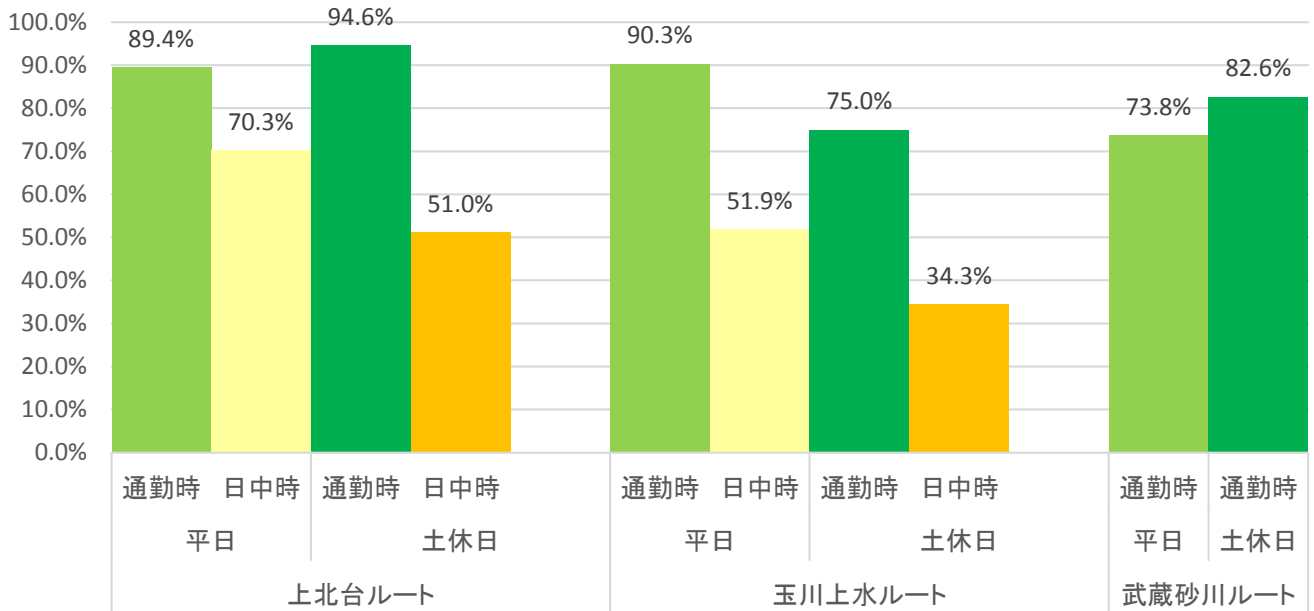


図 6 市内循環バス利用者の鉄道駅での乗降割合

資料：バス停間 OD 調査

以上より、武蔵村山市で適用性が高い利用促進策として以下の視点が考えられる。

**【武蔵村山市で適用性が高いと考えられる利用促進策の視点②】**

**鉄道利用時の端末交通手段としての利用促進**

## (2) 武蔵村山市で適用性が高いと考えられる利用促進策(案)

武蔵村山市で適用性が高いと考えられる利用促進策の視点を基に、他都市での事例を参考にすると、以下のような施策が挙げられる。

表 3 武蔵村山市で適用性が高いと考えられる利用促進策 (案)

視点		利用促進策 (案)	事例
①子育て世代を中心に過度な自動車利用から公共交通への転換	○子どもをきっかけとした利用促進	○学校でのモビリティ・マネジメント(※) ○出前講座、バスの乗り方教室	愛知県豊橋市
		○アニメ等のラッピングバス	川崎市
		○車内での児童の絵の展示	愛知県田原市
	○子ども連れの運賃抵抗の軽減	○複数人乗車割引	熊本電鉄バス
	○転入時をきっかけとした利用促進	○転入時のバスマップ配布、お試し乗車券配布	横浜市
	○免許返納時の利用促進	○免許返納時のバスマップ配布、特典乗車券配布	千葉県いすみ市
②鉄道利用時の端末交通手段としての利用促進	○乗換抵抗の軽減	○鉄道との乗り継ぎ割引	富山ライトレール
	○情報提供	○バス車内での鉄道運行情報案内	神奈川中央交通

※モビリティ・マネジメント(MM)とは、当該の地域や都市を、「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に(=かしこく)利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取り組みを意味するものです。

出典:「モビリティ・マネジメント」(国土交通省)



## 【国田委員からの提案】

地域公共交通会議の委員である国田委員より、市内循環バスの利用促進策について、以下の提案をいただいた。

### 【提案内容】

#### 1) 要旨

- ・市内循環バスの利用者を市民のみならず、近隣市住民に広げる
- ・市内循環バスの利用を促進することで、地場産業の活性化を目指す

⇒武蔵村山市には、以下のような地域資源や特産品があり、近隣市と比較しても遜色ない特徴である

- ・江戸時代に建立された神社・仏閣、不動尊など
- ・遊歩道用のトンネル（赤坂、御岳、横田、赤堀）
- ・遺跡（大多羅法師の池、歴史民族資料館）
- ・自然（岸の里山、野山北公園等）
- ・温泉（かたくり温泉）
- ・特産品（村山かてうどん、村山ゆでまんじゅう、狭山茶、地元の野菜、村山大島紬等）

#### 2) 利用促進策の具体案

「市内循環バス車内において美術展を開催する」

○展 示 内 容：写真、絵画、書道、俳句等

○作品テーマ：市内循環バス、モノレール、西武新宿線、武蔵村山市内の名所、旧跡、自然等

○応募対象者：武蔵村山市民を含む近隣の住民

○表 彰：審査により入選者を表彰する

○表彰の賞品：武蔵村山市に関係のある商品とする

（村山かてうどん、村山ゆでまんじゅう、狭山茶、地元の野菜、村山大島紬、武蔵村山市内の旧跡をモチーフした木工細工等）

※賞品を身近な嗜好品とすることにより、応募のモチベーションの向上が期待できる。

### (3) むらタクの利用促進策について

平成27年2月に実施したむらタクに関する意見交換会で挙げられた主な意見を基に、考えられる利用促進策を整理する。（ここでは、運行形態に関する意見は対象外とする）

表 4 「むらタク」に関する利用促進策（案）

意見交換会における意見		利用促進策（例）	事例等
車両	○車両に段差があり乗り降りが負担	補助ステップ、手すり等の設置	岩手県陸前高田市
周知	○老人会や地区会館でのイベント等でPRしてはどうか	老人会でのチラシ配布	愛知県小牧市
登録	○利用者登録が面倒	説明会と併せた利用者登録会	（多数）
運賃	○運賃を安くして欲しい	敬老の日割引	群馬県富岡市

### (4) まとめ

#### ● 市内循環バスの利用促進について

当市の地域特性及び交通に関する課題を踏まえ、次の3点に注目した上で運行事業者とも協議を重ね今後、有効な利用促進策を検討していくこととする。

- ・子育て世代を中心に過度な自動車利用から公共交通への転換
- ・鉄道利用時の端末交通手段としての利用促進
- ・委員からの提案（近隣市民の利用、地場産業を生かしたPR等）

#### ● 乗合タクシーの利用促進について

意見交換会での意見や利用者の声を勘案し、更なる利便性の向上につながる利用促進策を検討するとともに、対象地域内においても未だに「むらタク」の認知度が低いことから積極的なPR活動をおこなうこととする。